



ひまわりライス通信

H29.11月
No.101

皆さんこんにちは、伊藤です。10月23日道内には11月上旬並みの寒気が入り込み、北竜町にも初雪が降りました。幸いにも積もることなくすぐに融けましたが、昨年のように根雪になり大豆の収穫に大きく影響が出るんじゃないかと、ドキドキしていました。(* 3 `) < フウ ~ それでは、元気にいってみよう! (* ^ -) v ♪



ようやく稲刈りも終了し、今の田んぼは丸坊主。でも、よく見ると田んぼに線が入っているのわかりますか？稲刈りが終わったら、もう来年に向けての土作りが、始まっているんですよ。(^ . v ^) へー

これは、サブソイラ作業です。大きな爪を刺して田んぼを走ることにより、耕盤を破碎し膨軟にします。その結果、通気性・通水性・排水性が良くなり、根が伸びやすくなるんですよ。(. - ω -) ホウ

これは、稲わらのすき込み作業。稲わらの有機物は、土壤微生物の活動を助けて、養分を保持する力を強くします。また、害虫が刈り株などで越冬するので、地中にすき込むことで軽減!(^ ^) v



これでようやく、冬を迎える準備が整いました。また、来年の春まで、しばしの休眠です。(u ω u 人) zzz



お米の名前の由来について知ってる人は、どれだけいるのでしょうか？というわけで、調べてみましたよ。まずは、マツコデラックスさんのCMで、全国的に有名になった「ななつぼし」ですが、空気が綺麗で星が美しく見える北海道の北斗七星のように、キラキラと輝いて欲しいという願いが込められているそうです。次に「おぼろづき」ですが、薄く雲がかかったような白く澄んだ色合いが特徴で、春の夜に霞んで見える朧月に例えて名付けられたそうです。そして「ゆめぴりか」はというと、「日本一のおいしい米を！」という北海道民の「夢」に、アイヌ語で美味しいを意味する「ピリカ」を合わせて名付けられたそうです。最後に今一押しの「きたくりん」は、北を意味する「きた」と、耐病性に優れ、栽培時に薬剤防除が省略できることから、薬剤防除が少なくクリーンを意味する「くりん」、親の「ふっくりこ」から、「きたくりん」と名付けられたそうです。色々な思いと意味があって付けられているんですね。



お米は生き物なんです。美味しく食べられる保存期間って知ってますか？保存期間は季節によって違っているので、お米を購入する時は、このことを頭に入れておいてね♪保存状態にもよりますが、白米の場合は常温で1ヶ月程度。冬季は2~3か月。真夏や梅雨時は2~3週間が目安なんですよ。

お米は涼しい場所が好きなんです。家庭でのお米の保存は、比較的涼しい場所を選んでね(10~15度)。高温・湿気・直射日光は避けてくださいね。夏場は厚手のビニール袋に入れて、冷蔵庫の野菜室で保存するのも良いよ♪

今回も最後までお付き合い下さりありがとうございました。今月号をもちまして、今年度のシーズンが終了いたします。今月号は、自分が知らなかった名前の由来などを載せてみました。雑学として、憶えておくのも悪くないかな(^ ^) ♪ それでは皆さん、残り僅かな1年やり残しが無いようにお過ごしくださいね。また、来シーズンで(^ . ω . ^) / ★

J A きたそらち北竜支所 営農課
直通 0164-34-2247 FAX 0164-34-2216
生産情報公表 J A S のHPアドレスは <http://www.hokuryu-mai.com/>